



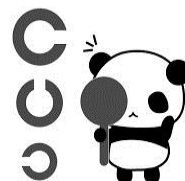
ナースだより

静岡市 こども園課
TEL 054-354-2638

2016年度 10月号

吹く風や空の様子に秋の気配を感じる時期になりました。日中との気温差があるこの時期は、体調を崩しやすくなりますので気を付けて過ごしたいですね。

10月10日は目の愛護デーです。今回はこどもの目についてお知らせします。



こどもの視力

生まれたばかりの赤ちゃんの視力は、目から脳へ信号を伝えて映像を理解する仕組みが育っていないため、明かりがぼんやりわかる程度です。実際に物を見て、目から脳の神経に刺激が加わることで成長します。

視力の発育するスピードは、生後間もない時期ほど急速です。視力は4～5歳で1.0に、8歳くらいで大人と同じくらい見えるようになります。

乳幼児期の視力が急速に発育する時に、

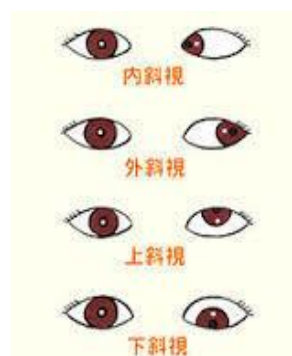
- ・視線が合わない
- ・見るのを邪魔するようなものがあつたなど、網膜にはっきりと像が写らず刺激が加わらなかった場合、視力は正常にそだちません。そのあとから視力が育ち始めても、遅れを取り戻して1.0の視力が完成するのではなく、遅れた分は失われたまま追いつけないことが多く、その結果弱視になってしまいます。

●弱視とは？

眼鏡をかけても視力が上がらない状態のことをいいます。

原因のひとつに、斜視があります。斜視があると、物が二つに見えたり、ずれた側の目でみる像がぼやけて見えるなどの理由により、こどもは無意識のうちにその目を使わなくなって視力の発達が妨げられてしまいます。

●斜視の種類



こどもの目の病気は予防することが難しく、いかに早く発見できるかが大切です。小さなお子様は症状を訴えないことが多いです。下記の症状があるかチェックしてみましょう。異常に気づいたら早めに眼科を受診しましょう。

<目を外から見た時に分かる目の異常>

- 両目が寄っている、ときどき寄り目になる
- いつも、あるいは横を向いたときにだけ片目が別のほうを向いている
- 左右の目の大きさが異なる
- 眼球が震えている
- 目が濁っている
- まぶたが垂れ下がっている



<しぐさや普段の行動から分かる目の異常>

- 片目を細めたり、閉じたりする
- 両方の目を細める
- 首を傾けたり、あごを上げたりする
- いつも同じ側に頭を回す
- 片方の目を隠すと機嫌が悪くなる
- 何をやってもあきっぽく、疲れやすい

・・・お知らせ・・・ 麻しん・風しん(MR)の予防接種を受けましょう

麻しん・風しん(MR)の予防接種は、1回目は1歳の誕生日を過ぎたら、2回目は小学校就学前の1年間に接種します。1回目をまだ接種していない年長のお子様は、かかりつけ医師に相談しましょう。